

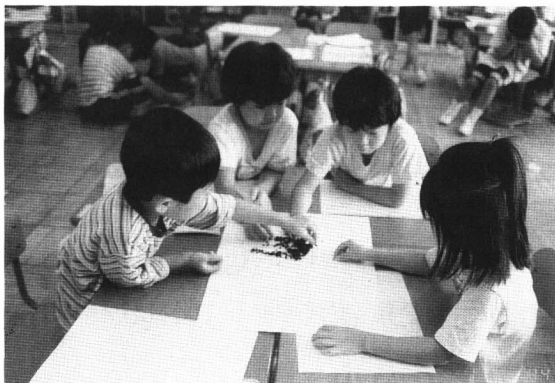
《授業後の児童の感想「道徳ノート」から》

てい学年からの手がみをさい
なみだが出てきた。
一年にまめしほりをまくとき
めんどうくさいと思っていた。
でも一年に三年生からの手
がみをさいてかんどうした。
それでなみだかとまらな
くなった。

- (3) ねらいとする道徳的価値の自覚に向けて
動機づける段階と資料から離れ、内面的な
自覚を図る段階に取り入れた場合の例

1年の授業では、導入の段階であさがおの種
取りをしている写真や種を並べて形づくりをし
ている写真を見て、活動をしている時の気持ち
を話し合わせた。「種があまり取れなかったの
で、少なくて嫌だった」「みんなで種を合わせ
て大きなものを作りたかったけれど、嫌だとい
う人がいたのでつまらなかった」という発表が
あったので、これを取り上げ「こんな気持ちで
いた友達がいるのだけれど、これでいいのかな」
と投げかけ、資料『くりのみ』の登場人物であ
るうさぎの友達を思いやるやさしさに共感させ
る話し合いをさせた。

資料から離れ、内面的な自覚を図る段階で、
導入で使用した写真をもう一度提示した時、
「私はみんなの種を合わせるのが嫌だと言っ
たけれど、合わせるとよかった」と発表した子
どもがいた。体験活動をした時の思いを大切に取
り上げてきたので、このような発言になったの
だろうと思われる。



IV 研究の成果と課題

1 研究の成果

(1) 思いやりの心を育てる体験活動を意図的
に仕組み、その活動に子どもが進んで参加しよ
うとする意欲を持たせる指導を大切にしてきた
ことにより、生命を大切にする心や思いやりの
心などが、動植物や人との関わりの中で少しづ
つ育ってきている。

(2) 総合単元的な道徳学習（思いやりの心を
育てる道徳学習）の指導計画に基づく授業実践
を行ったことで、道徳の時間やいろいろな活動
への取り組みに対する教師の意識や子どもたち
への支援の仕方などが変わってきた。

① 子どもの思い・感動を大切にしながら
いろいろな活動に取り組むようになった。

② 道徳の価値項目を意識しながら諸活動
に取り組むようになった。

③ 子どもたちへの声かけ・働きかけに留
意するようになった。

(3) 教師が1単位時間の道徳の授業を総合単
元的な道徳学習の中に位置付け、更に学習過程
を大切にするようになった。

(4) 家庭や地域への啓蒙活動を行ってきたこ
とにより、保護者・地域社会の道徳教育への関
心が高まった。

2 今後の課題

(1) 豊かな体験活動と道徳の時間との関連を
更に深め、主体的に道徳的实践ができる子ども
の育成を図っていく。

(2) 「身近な」という視点で体験活動の一層
の充実を図る。

(3) 家庭や地域の教育力を高める手だてにつ
いて、一層検討し、「地域の子どもは地域で育
てていく」という意識を広めていきたい。